

令和4年度分大船渡市教育委員会事務の点検・評価結果に対する意見

1 事務事業

番号	事務事業名	意見
1-1-1	外国青年招致事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業によって直接得られる成果を指標にしたほうが良い。 ・ 成果指標が岩手県小・中学校学習定着度状況調査の「外国語（英語）の授業が好き」の割合であることから、意図も「触れる」から「好きになる」とした方がわかりやすい。 ・ 中学生より、外国語指導助手が入る授業が多い小学生で、外国語への意欲が高まっており、それが成果指標にも表れている。 ・ 外国語指導助手の効果的活用により、教員の指導技術の向上を目指してほしい。
1-1-2	生徒指導研究事業	
1-1-3	特別支援教育支援員配置事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援員は各学校に1名以上が配置され、児童生徒の実態や学校の実情に応じた活用がなされており、学校からの満足度も高い。 ・ 学校では、特別な支援を必要とする児童生徒が増えており、特別支援教育支援員は多ければ多いほどよい。 ・ 学校の要望に沿った支援員の配置に努めてほしい。
1-2-1	教育相談員配置事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校状態の解消は、なかなか難しいことから、学校からの相談や利用件数など、学校等との連携が分かる成果指標を設定してはどうか。 ・ 教育相談室の利用により、学校や担任との結びつきが継続し、学習が保障されることから、相談室利用を積極的に促していくことが必要である。
1-2-2	心の教室相談員配置事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校の原因は、交友関係、家庭環境、生活習慣の乱れなど多様化しており、対応が難しくなっているが、引き続き力を入れて取り組んでほしい。
1-2-3	緊急スクールカウンセラー等派遣事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ スクールソーシャルワーカーの活動は、成果が見えにくい側面があり評価が難しい。関係機関につないだ件数や相談件数を指標として検討してはどうか。 ・ 適切な社会資源につなぎ、子どもの環境改善を図るスクールソーシャルワーカーの活動は、生活指導においても大きな役割を果たしており、今後も継続してほしい。
1-3-1	小中学校体育文化活動大会出場費補助事業	
1-3-2	児童生徒各種健康診断事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所見のある児童生徒に対しては、学校から保護者を通じて、通院を働きかけていくことが必要である。
1-4-1	教育用コンピュータ整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 費用対効果を考えながら、計画的に機器更新を進めてほしい。 ・ ICT教育の進展に伴い、教員のスキルアップが必要である。

番号	事務事業名	意見
1-4-2	学校施設整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の統廃合に係る改修は、補助金など有効な財源を活用し、大規模な改修等については、市で定めた方針により計画的に実施されている。 ・児童生徒がより安全で快適な学校生活が送れるように、施設や設備の細かな老朽化にも目をかけてほしい。
1-4-3	スクールバス運行事業	<ul style="list-style-type: none"> ・クレームはないのが理想だが、感じ方や考え方の違いによるところもあり、クレーム件数で事業評価をするのは難しい。 ・こども園の園児や住民が乗車するスクールバスについては、非常時の対応など関係機関と十分な連携を図ってほしい。 ・スクールバスは、登下校以外にも各学校の校外学習用として、もっと多く使用可能となるのが理想であるが、難しい面がある。移動バスを備えた博物館スクールの利用を、各学校にさらに促していくことも必要である。
1-5-1	地域学校協働本部事業	<ul style="list-style-type: none"> ・学校への地域住民の参画を促す地域コーディネーターの果たす役割は大きいが、人員の確保が課題となっている。 ・学校の活動に協力してくれる地域住民の発掘が大切である。 ・地域コーディネーターを対象に、人材等の情報共有や研修・交流を目的とした連絡会議を検討してはどうか。
2-1-1	三陸公民館施設管理・運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の利用実績は目標値を超えており、その要因としては、放課後児童クラブの活動場所としての定着と、コロナの収束によるところが大きい。
2-1-2	図書館運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理制度の導入により、専門職である図書館司書が1～2人から4人に増員され、選書やレファレンスサービスなど各種図書サービスの充実が図られている。 ・指定管理者の知見を活かし、図書館独自のHPの立ち上げによる積極的な広報や、多様な自主事業の展開により、利用者の満足度が向上している。 ・指定管理制度を導入しても、市の関与が希薄にならないように検証をしっかりと行い、引き続き指導、監督に努めてほしい。
2-1-3	博物館施設改修事業	
2-2-1	地区連携講座開催事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地区公民館や運営委員会、行政の各分野との協力体制が功を奏し、参加者数や満足度が目標値を上回る実績となっている。
2-2-2	青少年体験学習	<ul style="list-style-type: none"> ・英語スクールは、財源の関係から家庭教育学級での実施となるが、継続されることに安堵した。 ・評判の高かった陶芸教室については、市芸術文化協会に加盟している団体に引き継がれ、自主事業として生涯学習活動が展開されている。
2-3-1	社会教育関係団体活動支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に活動をしている団体に、補助金を交付することにより、団体や事業の継続が図られている。

番号	事務事業名	意見
3-1-1	学校体育施設開放事業	<ul style="list-style-type: none"> ・定年延長や管理の煩雑さなどから、管理人の確保が困難になっている。管理人業務を地域住民の善意に頼るのではなく、指定管理の業務とすることを検討してはどうか。 ・管理人業務の検討については、費用対効果や、地域の協力で継続されてきた取組であることも考慮すべきだ。
4-1-1	文化財普及活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財は、市の文化的財産であるとともに観光資源にもなり得ることから、ICTの活用など時代に即した効果的な情報発信に努めてほしい。 ・児童生徒へのリーフレットの配布は、学区内の遺跡学習や、地域に対する誇りや愛着につながるため、十分な数の配付を検討してほしい。 ・遺跡に興味を持ち、現地に足を運んでもらうために、ARやスタンプラリーの導入を検討してはどうか。
4-1-2	博物館展示事業	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展のポスターに工夫が見られ、特にインパクトが強いものは、児童の興味、関心を引いている。博物館の来館者増につながると良い。
4-2-1	こども郷土芸能まつり開催支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土芸能を継承していくためには、保存会と財政的な支援も含めた調整が必要である。

2 基本事業

基本事業名	意見
1-1 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTは学力向上のために必要なツールであり、積み重ねていくことが大切である。 ・AIドリルなどの活用により、児童生徒の個々の進度に合わせた取組のほか、不登校生の学習にも活用が期待される。 ・児童生徒の学力向上には、学習意欲を損なわないように取り組んでほしい。
1-2 豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の自己肯定感をさらに高めるため、情操教育の推進と、スクールカウンセラーや各相談員の適切な配置を進めてほしい。
1-3 健やかな体の育成	
1-4 教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の「普通教室の大型掲示装置の整備率」は、目標値を達成しているが、今後の学級数等の変動にも対応した計画的な更新に努めてほしい。
1-5 地域に開かれた魅力ある学校づくりの推進	
2-1 学習環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に対する参加者の底上げや、市民意識の醸成を図るために、自主活動団体の周知について検討をしてほしい。
2-2 学習機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習情報の提供に関する市民意識調査の結果は低いですが、他の成果指標や事務事業における達成度を鑑み、進捗度は「B」が妥当である。ただし、改善点などを「進捗度とその理由」欄に記載する必要がある。 ・企画運営に努力していることが、市民意識調査での評価に反映されていないため、情報発信に力を入れ、少しでも市民意識が向上するように取組を進めてほしい。
2-3 学習活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・目標には達していないが、企画に創意工夫が見られ、地区公民館の催事発表件数も回復してきている。
4-1 文化財の保存と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫した企画により、入館者の増加につながっている。 ・引き続き、市街地にある他の施設とのタイアップにより、事業を活性化していく必要がある。
4-2 伝統文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のまつりなど、市民の目に見える活動は、市民意識調査の結果も高く、郷土芸能を楽しみにしている人も多い。

3 総括（施策）

施策名	意見
1 学校教育の充実	<ul style="list-style-type: none">・教員の心身の健康が確保されなければ、学校教育の充実は図れないため、多忙化解消などにより教員の健康確保に努めてほしい。・学校教育を取り巻く環境の変化により、新たな課題が出てくるので、これらに対する取組も進めてほしい。・不登校について、学校ではアンケート調査・面談等による実態把握に努めているが、児童生徒一人一人を見ていかなければ解決が難しいため、進学、進級時や長期休業及び行事の前後など、機会を捉えた経過観察を大切にしてほしい。・長期休暇中の子ども達が、行き場を失うことがないようにしてほしい。
2 生涯学習の推進	<ul style="list-style-type: none">・市民意識調査の結果から、生涯学習活動に対する市民周知や、成果発表の場の創出に努める必要がある。
4 地域の歴史・文化資源の継承	<ul style="list-style-type: none">・「郷土の伝統文化や文化財を大切にしたい」と答えた市民の割合が増えており、郷土への誇りと愛着の醸成を図るために、文化資源の活用や伝承の取組を進めてほしい。